

町コミュニティバス運行における課題と対応策

1. 運行ルート変更後の利用者数について

運行ルート変更後の町コミュニティバス利用者数と昨年度の同時期における利用者数を以下に示す。

	平成 22 年度 (11 月～2 月)	平成 23 年度 (11 月～2 月)	増加率
西山間ルート	3,689 人	4,255 人	1.15
中央循環ルート (旧南部ルート)	4,449 人	4,451 人	1.00

西山間ルートについては、福貴畑集落センターから東山駅までルートを延伸した結果、延伸区間における新規利用者の増加や東山駅利用者の増加により、利用者数が増加していると考えられる。

しかし、延伸区間である櫛原地区、鳴川地区においては、月平均利用者が

櫛原：6 人（約 0.3 人/日）

鳴川：35 人（約 1.8 人/日）

となっており、利用者数は少ない。

中央循環ルートについては、運行ルートの拡大により利用者数の増加を見込んでいたが、昨年度の利用者数と同程度となった。

中央循環ルートについても、ルートを新設した区間においては新規利用者の増加が見られるが、主な各バス停の月平均利用者数は

元山上口駅：59 人（約 3.0 人/日）

プリズムへぐり：31 人（約 1.6 人/日）

三里南交差点：92 人（約 4.6 人/日）

となっており、利用者数は少ない。

また、中央循環ルートについては、旧南部ルート沿線の利用者数が減少する傾向が見られる。これは、以前よりも第 1 便の運行時刻が遅くなったこと、運行ルート拡大による運行便数の減少、待ち時間の増加が影響していると考えられる。

参考までに、旧南部ルートと中央循環ルート（右回り）について比較した結果を示す。

【参考資料】

①中央循環ルート 右回り第1便について

ヒアリング調査においては、中央循環ルートの第一便時刻が以前より遅くなったことに対する不満の声が多かった。（例：幼稚園・保育園への通園に利用できない等）

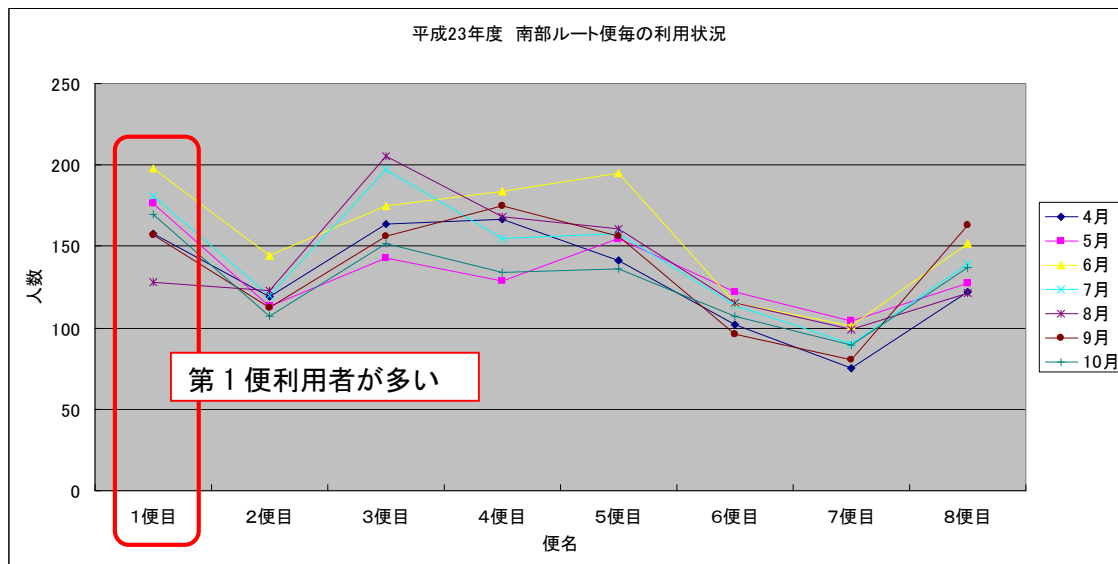
以下に、平成23年11月以前と現在の第一便時刻の比較を示す。

■第1便の運行時刻

旧南部ルート	中央循環ルート（右回り）	備考
	9:00 東山駅発	
8:25 椿井交差点南発	9:13 椿井交差点南	
8:39 南保育園前	9:35 南保育園	南保育園 8:30～
8:48 平群駅	9:55 平群駅	平群幼稚園 8:30～9:00 登園
8:52 老人福祉センター前	9:59 老人福祉センター前	はなさと保育園 8:30～

上記の通り、旧南部ルートに比べ、中央循環ルートの第一便運行時刻が以前よりも遅くなっているため、保育園、幼稚園の通園には利用できなくなっている。

また、旧南部ルートの便毎の利用者数グラフを以下に示す。

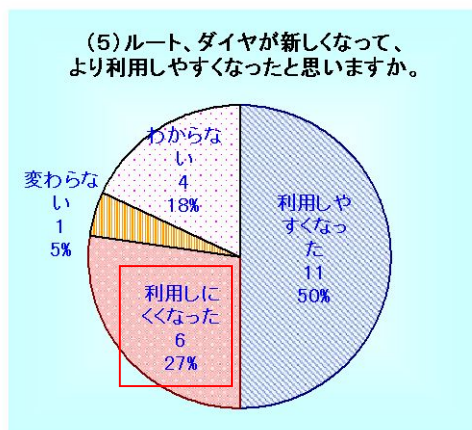
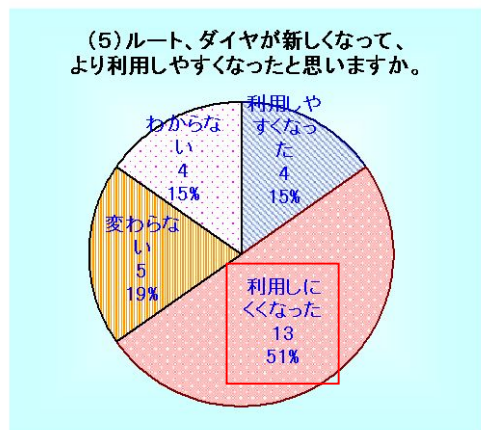


・上記表より、旧南部ルートの第1便については、利用者が多いことがわかる。また、平成23年11月のルート・ダイヤ変更により、第1便の運行時刻が遅くなったため、それに対する利用者の不満の声が多いと考えられる。

■平成 23 年 12 月実施のヒアリング調査結果

中央循環ルート 右回り

中央循環ルート 左回り



「利用しにくくなった」と回答した人は、主に旧南部ルート of 南部地区（春日丘、北信貴ヶ丘など）の利用者であった。

②中央循環ルートの便数について

以下に、中央循環ルートと旧南部ルートの便数を示す。

例：椿井交差点南→平群町役場

	旧南部ルート	中央循環ルート右回り
第1便	8:25	—
第2便	9:13	9:13
第3便	10:21	10:43
第4便	11:21	—
第5便	12:41	12:13
第6便	14:06	14:33
第7便	15:06	—
第8便	16:06	16:13
	1日8便 運行間隔約1時間	1日5便 運行間隔約1.5時間

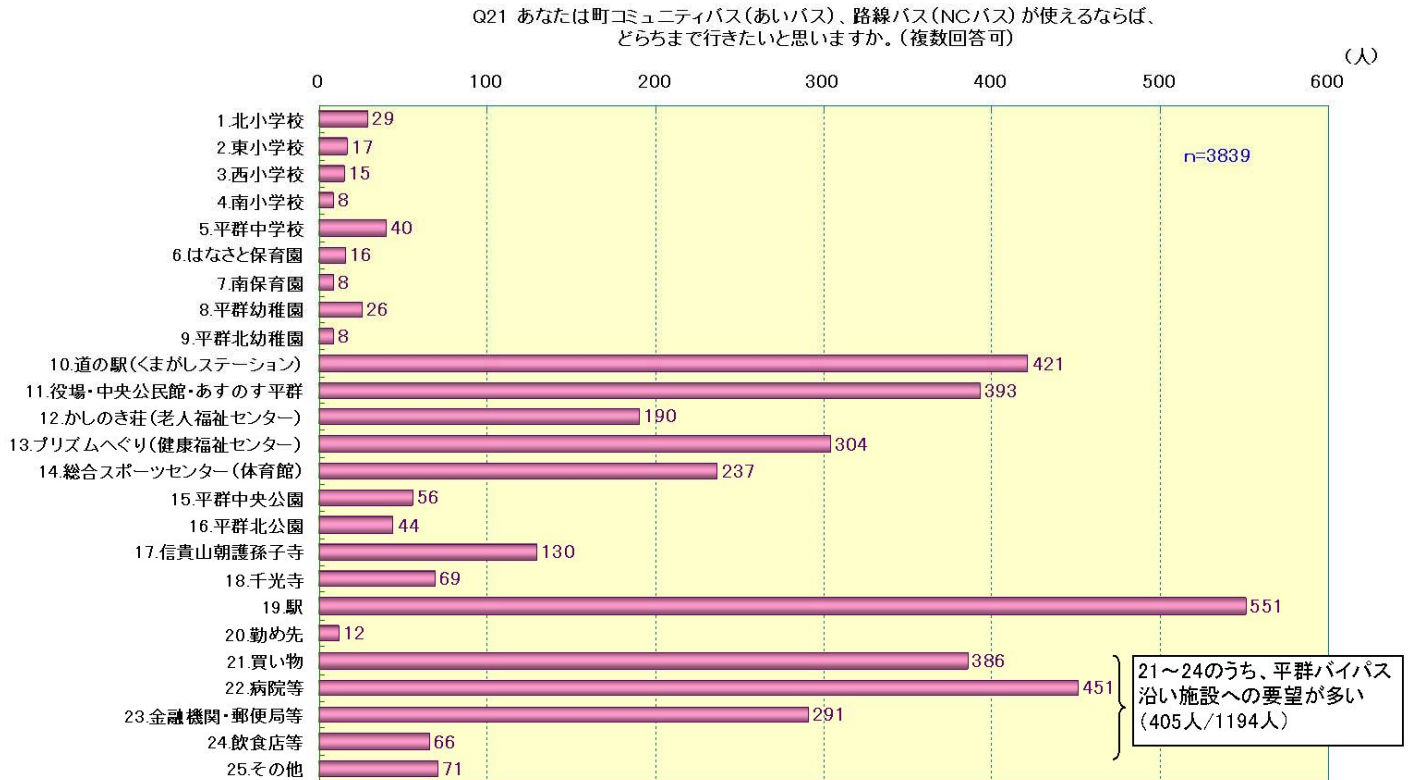
例：初香台4丁目→椿井交差点南

	旧南部ルート	中央循環ルート左回り
第1便	—	8:57
第2便	—	—
第3便	10:10	10:27
第4便	11:10	11:57
第5便	12:30	—
第6便	13:55	14:17
第7便	14:55	—
第8便	15:55	15:57
	1日6便 運行間隔約1～1.5時間	1日5便 運行間隔約1.5～2.5時間

- ・1日あたりの運行本数は、以前に比べて減っている。また、運行間隔についても、以前に比べ長くなっている。
- ・運行ルートの変更により、様々な場所への移動が可能になったが、1便あたりの運行時間の増加により、運行本数の減少、運行間隔の拡大を招いており、それが利用者の利便性低下につながっていると考えられる。

2. 平成 22 年度に実施したアンケート調査結果との比較

平成 22 年度に町コミュニティバスのアンケートを実施した際の、バスを使って行きたい場所に関する回答を以下に示す。



アンケート結果によると、「駅」、「病院等」、「道の駅」、「役場周辺の公共施設」、「買い物」、「プリズムへぐり」、「金融機関・郵便局等」、「総合スポーツセンター」という回答が多かった。

上記アンケートによる利用意向率と、中央循環ルートの停留所別乗降客数について以下に示す。

	アンケート回答数		中央循環ルート利用者数		備考
	回答数	割合	利用者数	割合	
全数	1,449		2,226		
道の駅	421	29%	55	2%	
役場周辺の公共施設	393	27%	124	6%	
プリズムへぐり	304	21%	31	1%	
駅	551	38%	682	31%	東山駅、元山上口駅、平群駅、竜田川駅
平群バイパス沿いの施設	405	28%	88	4%	

上記表より、駅以外の施設については、要望は高いが利用者数が伸びていない。

今後は上記施設についても、コミュニティバスを使って移動可能であることを積極的に広報するなど、利用者数を増加するための取り組みが必要である。

3. 課題と対応策

町コミュニティバスの利用状況及び新ルートによる運航後に実施したヒアリング調査結果より抽出した町コミュニティバス運行における課題と対応策について以下に示す。

No.	ルート	課題	対応策
1	中央循環ルート 西山間ルート	利用者を増やす取り組みが必要	①広報を積極的に行うことにより、住民への周知を図る。 ②公共交通に関するイベントを実施し、利用促進を図る。 ③一度乗ってもらう取り組みを実施する。(例:無料乗車券の配布)
2	中央循環ルート 西山間ルート	車内モニターで同じことを繰り返している。もっと有効活用すべきである。	観光情報や平群町からのお知らせなど、様々な情報を発信し、有効活用を図る。
3	中央循環ルート 西山間ルート	利用者数増加のために、利用者意見や非利用者意見を広く収集し、運行計画に反映する必要がある。	①バス利用者の意見を収集するため、バス車内に意見箱を設置する。 ②バス非利用者の意見については、他の事業で実施しているアンケート調査結果等を参照する。
4	中央循環ルート	右回りルートについて、第1便運行時刻が旧南部ルートの第1便に比べ、遅くなったため利用しにくくなった(保育園、幼稚園への通園利用が不可となった)	第1便の運行開始時刻を変更する方向でNCバスと調整を行う。
5	中央循環ルート	補助席があるために通路が狭く、荷物を持った移動、カートによる移動がしづらい。補助席を取り外せないか。	利用状況の推移を見極めながら、利便性向上のため補助席を取り外すことも検討する。
6	中央循環ルート	旧南部ルートの車両に比べ、料金箱の位置が遠くなったため、料金を入れにくい。	料金箱の位置については、運転手の手の届く範囲に設置している。また、車両の構造上位置を移動することは難しい。
7	西山間ルート	ドア開閉のブザー音が大きく、耳障りである。	音程の変更について、NCバスと調整を行う。